

現代日本学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代日本学概論Ⅰ	現代日本学の方法と対象	2	茂木 謙之介	3	前期 火曜日 2講時	現代日本論概論
現代日本学概論Ⅱ	現代日本と芸能・演劇	2	赤井 紀美	4	後期 月曜日 2講時	現代日本論概論
現代日本学基礎講読Ⅰ	英語の日本史の購読の紹介	2	CRAIG CHRISTOPHE	3	前期 月曜日 2講時	現代日本論基礎講読
現代日本学基礎講読Ⅱ	日本学の〈古典〉を読む	2	茂木 謙之介	4	後期 火曜日 2講時	現代日本論基礎講読
現代日本学各論Ⅰ	現代皇室の文化表象	2	茂木 謙之介	6	後期 火曜日 4講時	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅱ	13の瞬間から見る戦後日本史	2	CRAIG CHRISTOPHE	5	前期 火曜日 3講時	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅳ	「マンガ」とは何か	2	岩下 朋世	集中	集中講義	現代日本論各論
現代日本学講読Ⅰ	現代日本学講読	2	茂木 謙之介	5	前期 火曜日 4講時	現代日本論講読
現代日本学演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE	5	前期 月曜日 3講時	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅰ	人物史から考える日本の近代・現代	2	雲然 祥子	5	前期 金曜日 2講時	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	CRAIG CHRISTOPHE. 茂木 謙之介	6	後期 月曜日 3講時	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅱ	日本史文献購読・英訳	2	CRAIG CHRISTOPHE	6	後期 火曜日 3講時	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅴ	アダプテーション作品の分析からみる日本文化	2	赤井 紀美	5	前期 水曜日 2講時	現代日本論演習

科目名：現代日本学概論 I / Innovative Japanese Studies (General Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB32201, 科目ナンバリング：LHM-OHS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の方法と対象
2. Course Title (授業題目)：Methodology and target of Japanese Studies
3. 授業の目的と概要：本講義では現代日本学の基礎的な方法について概説する。「メディア」・「表象」・「言説」をキーワードとして、文化研究の方法としての批評理論を紹介し、具体的な検討を通して理解を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the basic method of Inovative Japanese Stuidies. In this course, students will understand methods through, tinkng about "media", "representation" and "discourse" as keywords.
5. 学習の到達目標：現代日本学の方法について理解し、先行論文を正確に読めるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic methods of Japanese Studies and be able to read prior papers accurately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 インTRODクシヨン
第2回 「メディア」「表象」「言説」から考える
第3回 批評理論の歴史
第4回 物語論①
第5回 物語論②
第6回 脱構築批評
第7回 メディア論
第8回 表現の不自由
第9回 アダプテーション
第10回 翻訳論
第11回 歴史と物語
第12回 文化研究の思考
第13回 ジェンダー批評
第14回 ポストコロニアル批評
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学概論Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (General Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB41201, 科目ナンバリング：LHM-OHS205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本と芸能・演劇
2. Course Title (授業題目)：Contemporary Japan and Performing Arts
3. 授業の目的と概要：古代から現代にいたるまでの日本の芸能と演劇について、様々な視点から講義する。現代の日本文化にも大きな影響を与えている芸能と演劇について、歴史的な事例を通して理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class will lecture on Japanese performing arts from ancient to modern times from various perspectives. The objective is to deepen understanding of the performing arts, which have had a great influence on contemporary Japanese culture, through historical examples.
5. 学習の到達目標：日本の芸能・演劇の歴史、特性について理解する。
現代の日本文化を考えるうえでの新たな視点を獲得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand the history and characteristics of Japanese performing arts.
Acquire new perspectives on contemporary Japanese culture.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：日本芸能・演劇の歴史を概観する
第3回：芸能・演劇と国家
第4回：語りの芸能①
第5回：語りの芸能②
第6回：語りの芸能③
第7回：演技の発展と形成①
第8回：演技の発展と形成②
第9回：演技の発展と形成③
第10回：演技の発展と形成④
第11回：笑いの芸能・演劇①
第12回：笑いの芸能・演劇②
第13回：見世物の歴史と展開①
第14回：見世物と歴史と展開②
第15回：これまでの授業のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
出席・授業参加度（50%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学基礎講読 I / Innovative Japanese Studies (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB31203, 科目ナンバリング：LHM-OHS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の日本史の購読の紹介
2. Course Title (授業題目)：An Introduction to Reading Japanese History in English
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた日本史の文献を取り上げその課題と方法・用語を習得し日本語に翻訳する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will be introduced to works on Japanese history written in English, will gain an understanding of the issues, methods, and vocabulary used in them, and will translate them into Japanese.
5. 学習の到達目標：英語の日本史研究の方法と課題の特長を理解して、多分野を用いる歴史学の方法と歴史学に関する翻訳の方法を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain an understanding of the characteristic methods and issues in English-language Japanese historical research, learn to conduct historical research using methods from a variety of disciplines, and develop skills in translating historical s
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第 1 回：講読についての解説①
 - 第 2 回：講読についての解説②
 - 第 3 回：講読①
 - 第 4 回：講読②
 - 第 5 回：講読③
 - 第 6 回：講読④
 - 第 7 回：講読⑤
 - 第 8 回：講読⑥
 - 第 9 回：講読⑦
 - 第 10 回：講読⑧
 - 第 11 回：講読⑨
 - 第 12 回：講読⑩
 - 第 13 回：講読⑪
 - 第 14 回：講読⑫
 - 第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む） [60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）
9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.
10. 授業時間外学習：購読を設定した時間にレポートを用意し、発表する。

Students will be assigned class meetings for which to prepare a report and make a presentation.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
読むテキストは英語で、授業やディスカッションは日本語で行う。
Texts to read will be in English, while the class instruction and discussion will be in Japanese.

科目名：現代日本学基礎講読Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB42204, 科目ナンバリング：LHM-OHS207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の〈古典〉を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the "classics" of Japanese studies
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本学の〈古典〉とされる様々な文献を講読し、日本学の歴史的な系譜を確認する。現在において日本学を考究することの可能性と困難さを考える。毎回発表者を立ててテキストを精読し、議論を行う。参加者には事前にテキストを熟読することが求められる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will read various documents considered to be 'classics' of Japanese studies and identify the historical genealogy of Japanese studies. The possibilities and difficulties of examining Japanese studies in the present day will be considered. Each time, a presenter will be appointed to read and discuss the texts. Participants are expected to read the texts in advance.
5. 学習の到達目標：日本学の基礎的文献についての基本的な知識を獲得するとともに、口頭報告と議論の技能を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire a basic knowledge of the basic literature of Japanese studies and to develop skills in oral reporting and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 インTRODクシヨン
第2回 担当の決定と資料検索の方法
第3回 準備報告①
第4回 準備報告②
第5回 論文講読①
第6回 論文講読②
第7回 論文講読③
第8回 論文講読④
第9回 論文講読⑤
第10回 論文講読⑥
第11回 論文講読⑦
第12回 論文講読⑧
第13回 論文講読⑨
第14回 論文講読⑩
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。参考書は大久保喬樹『日本文化論の系譜 『武士道』から『「甘え」の構造』まで』（中公新書、2014）
10. 授業時間外学習：毎回、事前のテキスト精読が必須となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学各論Ⅰ／

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

semester：6 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-OHS301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代皇室の文化表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of Japanese Royal family
3. 授業の目的と概要：本講義では、戦後から現代における皇室の文化表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的にはポピュラーカルチャーを中心に戦後以降の天皇と皇室を描いた様々なイメージを検討し、それらが近現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Post-war Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family in the 2010s and think about the meaning of those images in post-war Japanese society. This course calls for audiences active participation.
5. 学習の到達目標：戦後の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of post-war Japanese royals.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 インTRODククション
第2回 天皇制と表象
第3回 天皇・皇室表象の“限界”
第4回 事例研究1：「セカイ系」と天皇
第5回 事例研究2：偽史と正史のあいだ
第6回 事例研究3：8月15日の神話叙述
第7回 事例研究4：「Jブンガク」の天皇たち
第8回 事例研究5：闘う少女天皇
第9回 事例研究6：皇族萌えの到達点
第10回 事例研究7：生殖と連帯
第11回 事例研究8：「天皇晴れ」と「災害の時代」
第12回 事例研究9：天皇と怪獣
第13回 事例研究10：天皇と新皇
第14回 事例研究11：妖怪と天皇的なもの
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位10%程度を「AA」とし、次に優秀な20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note：“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学各論Ⅱ／

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB52301, 科目ナンバリング：LHM-OHS302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：13の瞬間から見る戦後日本史

2. Course Title (授業題目)：Postwar Japanese History as Seen through 13 Moments

3. 授業の目的と概要：この授業では、13の重要な瞬間の検討を通じて、第二次世界大戦の終結から現在までの日本の歴史を探求する。災害、世界との新たな関わり、政治・経済の変化、その他の注目すべき出来事を含め、新しい視点から戦後を概観し、戦後の社会と政治の根底にある連続性と非連続性の両方の線、そして戦後の世界秩序における日本の位置を規定した地域と世界のつながりを浮き彫りにします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explores the history of the period from the end of the Second World War to the present in Japan through an examination of 13 important moments. Including disasters, new engagements with the world, political and economic shifts, and other notable events, this class will provide an overview of the postwar from a new perspective, highlighting the lines of both continuity and discontinuity that underlie postwar society and politics, as well as the regional and global connections that have defined Japan's place in the postwar world order.

5. 学習の到達目標：このクラスの主な目的は、戦後日本についての理解を深めるとともに、個々の出来事をより長い歴史的展開と結びつける手段を紹介することである。また、このテーマに関する英語での研究知識も身につけます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goals of the class are to build an understanding of the Japanese postwar among students while also demonstrating the means by which to connect individual moments with longer historical developments. Students will also gain familiarity with Eng

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：戦後日本史：概論

第3回：1945年8月15日

第4回：1946年10月21日

第5回：1947年1月31日

第6回：1950年6月25日

第7回：1960年6月15日

第8回：1964年10月10日

第9回：1971年4月10日

第10回：1972年8月23日

第11回：1985年9月22日

第12回：1989年1月7日

第13回：1995年1月7日・3月20日

第14回：1997年7月7日

第15回：2001年3月11日

8. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Readings will be distributed for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

This class is taught in English. All readings are in English, but assignments can be submitted in English or Japanese.

このクラスは英語で行われます。リーディングはすべて英語で行われますが、課題の提出は英語または日本語で可能です。

科目名：現代日本学各論Ⅳ／

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：0 単位数：2

担当教員：岩下 朋世

コード：LB98804, 科目ナンバリング：LHM-OHS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「マンガ」とは何か
2. Course Title (授業題目)：What Is "Manga"
3. 授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn about the definition, history, and narrative of manga. Manga is a very popular culture in Japan. Because of this, we tend to think that we know something about "manga". However, it is actually very difficult to answer the question, "What is manga?". To illustrate this point, we take a variety of concrete examples, both old and new. Participants are encouraged to actively participate in discussions.
5. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understand the history and expression of manga. Learn the skills to analyze manga.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
内容及び進捗予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第1回 イントロダクション
第2回 「マンガ」のさまざまな定義
第3回 「北斎漫画」はマンガか？
第4回 コマと物語
第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に
第6回 マンガと出版文化①
第7回 マンガと出版文化②
第8回 手塚治虫と少女マンガ
第9回 少女マンガにおける異性装
第10回 マンガにおけるイメージと言葉①
第11回 マンガにおけるイメージと言葉②
第12回 萩尾望都「半神」を読む
第13回 マンガを読む-受講者による発表①
第14回 マンガを読む-受講者による発表②
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代日本学講読 I / Innovative Japanese Studies (Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-OHS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学講読

2. Course Title (授業題目)：現代日本学講読

3. 授業の目的と概要：本授業では現代日本学に関連する論文の精読を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では様々な対象および方法論を検討する。受講者は学期中に最低一回の口頭報告を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will do a close reading of articles related to Innovative Japanese studies. In this course, we will examine a variety of subjects and methodologies. Students will give at least one oral presentation during the semester.

5. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して文献講読の方法を理解し、自らの問題意識を先鋭化させることが出来ることが到達目標である。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the method of reading and to sharpen their own awareness of the issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 インTRODクシヨン

第2回 担当の決定と論文検索の方法

第3回 準備報告①

第4回 準備報告②

第5回 論文講読①

第6回 論文講読②

第7回 論文講読③

第8回 論文講読④

第9回 論文講読⑤

第10回 論文講読⑥

第11回 論文講読⑦

第12回 論文講読⑧

第13回 論文講読⑨

第14回 論文講読⑩

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、事前の論文精読が必要となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB51304, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第 1 回：はじめに—日本学とは何か—

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第 3 回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第 4 回：文献・研究課題に関わるガイダンス③

第 5 回：研究プロジェクトとその進め方①

第 6 回：研究プロジェクトとその進め方②

第 7 回：研究プロジェクトとその進め方③

第 8 回：研究プロジェクトとその進め方④

第 9 回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第 10 回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第 11 回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第 12 回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第 13 回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第 14 回：日本学の課題についての総合討論①

第 15 回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表 [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：雲然 祥子

コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物史から考える日本の近代・現代
2. Course Title (授業題目)：A Study of Modern Japanese History and Social Situation from the Perspective of a Life of a Person
3. 授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や業績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。
それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史料資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When discussing and understanding Japanese history and social situation, one must always take into account the relevant background. In this course, the purpose is to study and understand about the history and social situation of modern Japan, with the case of a person's life (history and activities).
5. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。
様々な史料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。
現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire historical knowledge, thinking and express ability.
To understand the social situation by analyzing and reading various historical materials.
To discover issues in modern society and organize opinions in appropriate words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項
 - 第 3 回 ケーススタディ (事例報告①)
 - 第 4 回 受講生による発表
 - 第 5 回 受講生による報告・議論①
 - 第 6 回 受講生による報告・議論②
 - 第 7 回 受講生による報告・議論③
 - 第 8 回 受講生による報告・議論④
 - 第 9 回 ケース・スタディ (事例報告②)
 - 第 10 回 受講生による報告・議論⑤
 - 第 11 回 受講生による報告・議論⑥
 - 第 12 回 受講生による報告・議論⑦
 - 第 13 回 受講生による報告・議論⑧
 - 第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ
 - 第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて
8. 成績評価方法：
演習中の課題 (20%)、報告・討論 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：史料・文献などを利用し、授業で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE. 茂木 謙之介

コード：LB61303, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学研究の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LB62304, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史文献購読・英訳
2. Course Title (授業題目)：Reading and Translation Fundamentals for Japanese History
3. 授業の目的と概要：購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating historical Japanese sources.
5. 学習の到達目標：将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving historical sources and academic works in Japanese.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. 文献の紹介
 2. 文献購読・英訳
 3. 文献購読・英訳
 4. 文献購読・英訳
 5. 文献購読・英訳
 6. 文献購読・英訳
 7. 文献購読・英訳
 8. 文献購読・英訳
 9. 文献購読・英訳
 10. 文献購読・英訳
 11. 文献購読・英訳
 12. 文献購読・英訳
 13. 文献購読・英訳
 14. 文献購読・英訳
 15. 文献購読・英訳
8. 成績評価方法：
翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]
9. 教科書および参考書：
各時間に適宜資料を配布する。
Readings will be distributed for each class.
10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。
1回書いた英訳を提出する。
Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：現代日本学演習V／ Innovative Japanese Studies Seminar V

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-OHS312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アダプテーション作品の分析からみる日本文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Culture through Analysis of Adapted Works
3. 授業の目的と概要：アダプテーションとは、もとにある作品を異なる形に移し替えて新たな作品を作ることを指す。日本におけるアダプテーションの歴史は古く、現代に至るまで盛んに行われている。この授業では、日本におけるアダプテーションの歴史を踏まえ、主に近世後期から近現代におけるアダプテーション作品を取り上げて受講生の興味関心に従い論じる。作品の分析を通して日本文化の特性を学ぶとともに、その作品が生まれたそれぞれの時代背景について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Adaptation refers to the process of creating a new work by transferring the original work into a different form. Adaptation in Japan has a long history and has been actively practiced up to the present day. In this class, based on the history of adaptation in Japan, we will discuss adaptation works mainly from the late modern period to the modern period according to the interests of the students. Through the analysis of these works, students will learn about the characteristics of Japanese culture and gain an understanding of the historical backgrounds in which these works were created.
5. 学習の到達目標：日本の文化と歴史について理解する。
作品を分析するための基本的なスキルや、様々な文献を読解する力を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand Japanese culture and history.
Learn basic skills for analyzing works and reading a variety of literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：アダプテーションの歴史と日本文化
第3回：課題設定、文献調査の方法について
第4回：担当者による発表と質疑応答①【近世後期の作品1】
第5回：担当者による発表と質疑応答②【近世後期の作品2】
第6回：担当者による発表と質疑応答③【近世後期の作品3】
第7回：担当者による発表と質疑応答④【近代の作品1】
第8回：担当者による発表と質疑応答⑤【近代の作品2】
第9回：担当者による発表と質疑応答⑥【近代の作品3】
第10回：担当者による発表と質疑応答⑦【近代の作品4】
第11回：担当者による発表と質疑応答⑧【現代の作品1】
第12回：担当者による発表と質疑応答⑨【現代の作品2】
第13回：担当者による発表と質疑応答⑩【現代の作品3】
第14回：担当者による発表と質疑応答⑪【現代の作品4】
第15回：これまでの発表のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
授業中の発表(40%)、出席・授業参加度(20%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし